

江之浦～焚場地区の高潮対策デザインについて

デザイン検討会議

鞆地区は古くから湊町として栄え、常夜燈、波止、雁木、焚場跡、船番所跡などの歴史的港湾施設が大切に保存されている。

このような歴史的港湾施設に加えて、江之浦～焚場地区には、沿岸敷地の方々が築造した護岸がある。時代の変遷とともに、敷地毎に造られてきた特徴的な護岸は、この地区特有の風景をなし、魅力の一つとなっている。

一方で、台風や暴風に伴う高潮により、これまでたびたび浸水の被害を受けてきており、直近では平成16年の台風第16号で約190軒の被害があった。さらに近年の異常気象の影響で、大規模災害が頻発していることから高潮への対策は喫緊の課題となっている。

今回計画する高潮対策は防災機能とともに、これまでの地元の方々の暮らしや特徴的な護岸、すぐれた景観・文化財などの価値保全との両立を図る必要があり、地元の方々や鞆を訪れる方々が、今と同様の海の風景を感じとれるようにすることが望まれる。

護岸等の整備にあたっては、次の具体的方針を設定した。

- (1) 既存護岸を保存した上で、新設護岸との間に離隔を設ける。また新設護岸から保存された既存護岸ができる限り見えるようにする。
- (2) 新設護岸から鞆の美しい湾の景色を眺められるよう、護岸の海側の壁の高さを工夫する。
- (3) 新設護岸の天端には笠石を配置する等、景観の保全に配慮する。
- (4) 海上からの景観が変わらないよう、新設護岸には周辺で用いられている素材をできるだけ用いる。
- (5) 既存護岸が敷地毎に造られてきた特徴を生み出している海岸背後の土地の敷地割を感じられるよう、新設護岸に適度な分節（見かけ上の区切り）を設ける。
- (6) 亀甲状石積はできる限り現状保存するとともに、極力見えるよう、その部分の新設護岸は橋梁形式とする。
- (7) 砂浜部の高潮対策については、これまでの地元の方々の利用形態や砂浜の景観を阻害しないよう起伏式ゲート構造とする。ゲートが伏せている平常時には、周辺の砂浜の風景に溶け込むよう、違和感のない表面処理とするなど、目立たないように配慮する。

本事業は、防災上の機能を確保しながら、沿岸敷地の方々がこれまでに築造してきた既存護岸を見えるように保存し、その景観・文化財などの価値を将来に引き継ぐというこれまでには無い独創的な取り組みである。

こうした取り組みにより、高潮対策デザインを検討した区間が、防災機能の向上とともに、魅力的な空間として、地元の方々の安全な通行と鞆を訪れる方々の散策などに利用されることを願う。

また鞆には、重要伝統的建造物群保存地区に選定された歴史的な町並みや沿岸部の常夜燈、波止、雁木、焚場跡、船番所跡などの歴史的港湾施設をはじめとした多くの魅力がある。防災機能の向上と景観・文化財などの価値の保全の両立を目指す高潮対策デザインが、これらの魅力と一体となって、鞆全体のまちづくりのさらなる発展に寄与することを強く期待している。